

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4470500572
法人名	社会福祉法人 長陽会
事業所名	グループホーム望
訪問調査日	平成 20 年 3 月 24 日
評価確定日	平成 20 年 6 月 5 日
評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4470500572
法人名	社会福祉法人 長陽会
事業所名	グループホーム 望
所在地	佐伯市大字長良4952番地 (電話) 0972-28-3322

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた
所在地	大分市大津町2丁目1番41号
訪問調査日	平成20年3月24日
評価確定日	平成20年6月5日

【情報提供票より】(平成20年3月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年6月13日
ユニット数	1 ユニット
利用定員数計	9 人
職員数	7 人
	常勤 7人, 非常勤 0人, 常勤換算 7人

(2) 建物概要

建物構造	木造2階建て 造り
	2階建ての 階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	9,600 円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 880円			

(4) 利用者の概要(3月10日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	6 名	要介護2	1 名		
要介護3	1 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.1 歳	最低	68 歳	最高	90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人松下医院
---------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

1. どっしりとした大きな日本家屋で高級感があり、敷地内には庭園や家庭菜園が整備されている。外周は法人が米を作っている田んぼが広がって四季の移り変わりが眺められ、自然に囲まれた環境で地域にも馴染んでいる。
2. 畑や田んぼで育てて収穫した米や野菜を使って食の安全に留意し、また、食べ物を作ることの喜びを大切にしている。またオリジナルデザインの有田焼で食事をするなど、食べることの楽しみを大切にしている。
3. 地域ボランティアの受入れにより、歌や踊りなどの交流を週2回以上実施し、利用者はいきいきとした生活を送っている。
4. 緊急時(浸水時)には、現在は使用していない2階の広い空間を活用でき、安心して過せる住居となっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価について職員で話し合い、改善に向けて取組んでいる。また運営推進会議に提示して話し合い意見を出し合っている。改善項目については具体的に実施内容を決め評価を行っている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価票を全職員に配り各自で自己評価を行うと共に、職員で評価の意義や内容について話し合い質の向上に向けての学習の機会として取組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1回開催してグループホームの取り組みや利用者の生活状況の報告を行っている。外部評価についても結果を報告し話し合い、会議録も内容を詳細に記述している。また、会議を通して避難訓練や利用者がいなくなったことなどを想定した話し合いを行い、地域を巻き込む働きかけをしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連事項:外部7, 8)
	毎月、家族会を開催し、グルメ祭などの催しを通して話しやすいような場を設定している。家族の代表者は運営推進会議に出席して家族としての思いや意見を伝えている。また、家族へ毎月、広報誌を送り、月ごとの計画表も入れて予定が分かるようにし、日頃の暮らしぶりについて職員は手書きの手紙で伝えている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	市内のボランティアを週に2~3回招き、大正琴、舞踊りハビリ、カラオケ、音楽療法などを通して地域とのつながりを大切にしている。また、法人が祭を開き地域の楽しみの場を提供したり、市の祭に協賛して灯籠作りのボランティア活動を利用者が行っている。また、施設長が自治会長をしていることもあり自治会との自然な支え合いの関係ができています。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営方針として地域や家庭との結びつきを重要視してそれを基に、地域に根ざした理念を話し合い作り地域でその人らしく生きるよう取り組んでいる。		
		○理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念が実践できるよう職員間で話し合い、住み慣れた地域で暮らせるようボランティアの積極的受入れや、地域の方と一緒に過ごせるような企画をアピールをしている。		
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	市内のボランティアを週に2~3回招き大正琴、舞踊リハビリ、カラオケ、音楽療法などを通して地域とのつながりを大切にしている。また、法人が祭を開き地域の楽しみの場を提供したり、市の祭に協賛して灯籠作りのボランティア活動を利用者が行っている。また、施設長が自治会長をしていることもあり自治会との自然な支え合いの関係ができています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		○評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回改善項目について会議を開き、改善に向け取り組み、評価を行い継続していく姿勢である。今回の自己評価については、職員各自が評価をして話し合いまとめている。また、自己評価の過程で職員は地域密着としての交流の大切さなどに気付きが見られる。		
		○運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催してグループホームの取り組みや利用者の生活状況の報告を行っている。外部評価についても結果を報告し話し合い、会議録も内容を詳細に明記している。また、会議を通じて避難訓練や利用者がいなくなったことなどを想定した話し合いをし、地域を巻き込む働きかけをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市内の関係者で開く地域ケア会議に出席して、サービスの質の向上を図っている。また、市担当者のもとへ出向き、医療法顕制度や利用者の困難事例について相談を行い、アドバイスを受けている。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月家族へ広報誌を送り、月ごとの計画表も入れて予定が分かるようにし、日頃の暮らしぶりについて職員は手書きの手紙で伝えている。また毎月家族会を開き状況報告や個別の相談など実施している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の会を毎月開催して家族の思いや意見を出せるようにしており、グルメ祭りなどを催し、同じものを作ったり食べる中で意見や要望を出しやすい工夫をしている。また、運営推進会議に家族会として参加し意見を出し運営に反映されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	毎月の家族会で職員の異動を説明すると共に、利用者へのダメージを防ぐよう、法人内で事前に馴染みの関係を作ってから配属となるよう配慮している。		
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修が月に数回開催され、全体でケアの質について研修し、外部研修にも行っている。しかし、段階に応じての年間計画の作成はしていない。	○	法人として研修に力を入れているので更なる取り組みとして、段階に応じての年間計画の作成により一層の向上が期待される。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大分県老人福祉施設協議会のグループホーム専門委員会に参加し、県内の情報の収集と研修を行っている。また、他のグループホームと研修や見学の受入れを行い共に研鑽しようと取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	法人内のデイサービス利用からの入居が多く、行事活動など通じて馴染みの関係ができていくケースがほとんどであるが、それ以外のケースの場合も、グループホームの見学や自宅訪問を行い生活歴や環境などを把握して徐々に利用を開始している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と職員が共に野菜づくりや小物作りを、お互い励まし合ったり笑い合ったりと支え合いながら行っている。また、職員は利用者のこだわりや不安や理解して、動きや表情の中から察知してさりげなく支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に一人ひとりがその人らしく暮らすため、趣味や好きなこと、生活歴や生活様式などを聞き取り記録して、本人の思いを把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月に1度の家族会や面会の時など家族から希望や意見を聞き、職員で話し合いプランを作成している。支援目標、支援内容、行動計画書が具体的に各項目ごとに立てられケアに活かされていて、プランの内容も課題解決のみでなく楽しみを持って生活できるよう工夫されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月から6ヶ月の定期的見直しを行い、毎月のモニタリングで気づきがあった時や状態に変化が見られる時は、家族と話し合い見直しを行い、直接、家族と話し合えない時は電話連絡をして見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族や本人の希望に応じ病院の付き添いや美容院への送迎を行っている。また、書道展や仏壇展示会など興味に応じた外出や、文化会館での催し物に出かけるなど柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望により利用開始前からのかかりつけ医の診察を受けており職員が付き添っている。また定期的な往診や検診を行い、状態により専門医療機関と連絡を取り合い速やかな医療連携が取れるよう対応がされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	グループホームとしてはターミナルの看取りは行わず、同法人内施設で最期を過ごせるよう馴れ親しんだ中での移行支援の方針であり、入居時に家族と終末期について話し合い確認書を交わし確認合っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライドを尊重した呼び方や声掛けを行い、入浴、排泄時は不安や羞恥心に配慮した対応をしている。また、記録や個人情報など厳重に保管し、職員間でも研修において確認合っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはあるが利用者のペースに合わせて、午前中ゆったりと過ごす人や市の移動図書館を利用して好きな本を読むなど要望に応じた支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器は有田焼の法人オリジナルデザインを使用し、週1回の選択食(写真を見て好きな物を選択)希望を取り入れ、月2回ホームメイドのおやつ作りなど楽しんでいる。また、食材も米や野菜など法人の利用者と職員で作った物を使い、食べることに重きを置いている。利用者と職員は同じテーブルで会話をしながら楽しく食べている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週3回以上を目安に入浴を実施している。夏や状況に応じてシャワー浴、発熱時は清拭を行い入浴日の予定を変更するなど柔軟な対応である。また個人浴によりプライバシーを配慮し、総ヒノキ風呂で癒し楽しむ入浴支援である。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	茶碗洗いや片付け、編物、洗濯物たたみ、野菜づくりなど行い、毎日みんなで掃除をしてお掃除機かけ、モップかけ、雑巾かけなどできること気の向くことをしている。人形を子どもとしてお世話をして心理状態に沿った役割や地域の祭の灯籠作りと幅広い支援を行っている。また、ボランティア講師によるカラオケや舞踊、音楽療法など地域の方を交え楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望により毎日の観音様参り(法人内設置)や散歩など日常的に行い、展示会や催し、買物や外食に出かけて楽しんでいる。グループホームの周囲に桜など樹木、草花を配して、敷地内の畑では自分たちで野菜を植え、利用者が状況確認に自ら出て行くよう心配りがある。また、天気の良い日は庭でおやつを食べるなど外に出る工夫をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関や裏口の鍵を昼間はかけておらず、外に出たい時は規制せず自由に出て行くよう職員は見守っている。職員は利用者の外に出たくなる原因やパターンを把握して出て行こうとする行動を止めるのではなく、心を満たす工夫をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を月に1回実施、法人が地域の避難場所に指定されており、地域の協力体制はできていて、グループホームの2階部分は、利用者や地域の方が浸水時に避難することが可能である。また、災害用備蓄は準備されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの好きな食べ物や飲み物を把握した上で、法人の栄養士がバランスの取れたメニューを作成し、咀嚼機能に応じて調理の工夫をして食べやすいようにしている。また、食事、水分摂取量は確認して記録シエアに活かしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体が和風で落ち着きがあり、利用者の年代に合った小物や板戸など懐かしい空間作りの工夫が見られる。また掘り炬燵を皆で囲み作業をして活気のある生活ぶりで、共用空間が広く和室に適度な段差があり、生活の中で機能訓練ができるよう配慮が見られる。また、浸水等の災害発生時は、2階部分に避難し、皆が同じ場所で過ごせて安心である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家から使い慣れた生活用品や仏壇を持ち込み、その人の思いや興味のあるもの、懐かしく思い出のある写真、元気な時に作った手芸小物など自分らしい居場所づくりがなされている。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム望
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	
記入者名 (管理者)	矢野 マキ子
記入日	平成 20 年 3 月 10 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
<input type="checkbox"/> 1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念「地域の中で地域と共に生きる」を共有すると共に、「挨拶・笑顔・掃除」の3つを基本とする、事業所独自の運営理念を玄関に明示し、家族または訪問者にも解りやすいようにしている。	
<input type="checkbox"/> 2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	住み慣れた地域で暮らせるよう、また、利用者との関係を築くため、信頼される施設が作れるように、日々サービス提供場面において理念に基づき取り組みを実践できている。	
<input type="checkbox"/> 3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	日々の業務の中や生活の中で、職員で理念の共有を行い実践している。また、家族会の中や訪問時にも理解してもらえるよう取り組んでいる。	
2. 地域との支えあい			
<input type="checkbox"/> 4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	地域の方へ行事への参加の声かけを行っている。また、日常的な付き合いは困難だが、町の人との関係作りは工夫している。	
<input type="checkbox"/> 5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	法人の年間を通しての多彩な行事に地域の方にも呼びかけ、交流を図っている。尚、現在は自治会や老人会への参加はしていない。	○ 地域との交流は行えているが「来て頂く」のではなく「呼んで頂く」交流が出来れば良い。例えば、老人会への参加など。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書により説明を行い、事業所の取り組みやケアの方針を納得していただき、同意の捺印を得ている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	個別にそれとなく話を聞き、不快に思っていること、納得できないことについては、本人の意見が自由に言えるような配慮を行い、不満解消に努めている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月新聞「陽」を送付すると共に、手書きの手紙、又、必要関係書類を同封し、個人に合わせた報告をしている。来苑時には、本人のアルバムを見て頂き日常生活を理解してもらっている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人の福祉サービス相談委員会で、苦情や要望など受けている。また、家族や利用者が意見や不満を気軽に云える雰囲気や機会を(来苑カードにメモ欄がある)設けている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	寮母会議や必要に応じた会議・ミーティングの中で、日々、サービスに対する意見や提案に耳を傾け、働く意欲の向上に努め、職員の声を業務に反映させている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者の状況に合わせ必要に応じた対応ができるよう、勤務調整を行っている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	混乱や不安を最小限にするために、常に専従職員において支援している。また、移動においては利用者のダメージを防ぐ配慮をしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>毎月の目標を上げ、目標に向けて勉強会など行っている。尚、外部研修への参加も行っている。</p>	<p>○</p> <p>段階に応じた年間計画は作成していないので、法人内の研修にも職員が参加することが出来るよう、計画を立てて取り組みたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域のグループホームや他施設等の見学の受け入れを行ない、お互いに情報交換を行ない、サービス向上に努めている。また、県内のグループホーム研修会にも参加している。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員親睦を踏まえ、ミニバレーボール大会の実施を行い、ストレス解消に努めている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>日頃のミーティングや会議での意見を聞いて、実践・評価を踏まえて楽しく働く事に喜びを持てるような取り組みをしている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>生活歴、ライフスタイルの情報を共有し、常に話の場を作っている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居される前には施設の見学を行ってもらい、日常の生活風景などを見てもらっている。ご家族の不安や希望をよく話し合っている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の希望時に入居できない場合は、担当のケアマネジャー、家族と一緒に話し合いを行い、他サービスの利用等も支援している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族の理解や了解の基で自宅訪問したり、利用者のデイサービスでの身体状況などの把握を行い、コミュニケーションを図り顔馴染みになるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にもかかわらず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	常に介護される立場ではなく、一人ひとりの能力に合わせた支援の中で喜びや生きがいにつながる、働きかけを行ないお互いが向上出来る関係を築いている。食事の盛りつけ・洗濯・片付け・野菜づくりが行える様な環境づくりを行ない、一緒に支えあっている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にもかかわらず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者の楽しみや生きがい対策に取り組みを計画し、家族・職員と一緒に本人を支えている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居者の方の生活状況の報告を行っている。特に、遠方にいる方には安心していただけるように努めている。また、外泊や外出も支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者が以前より利用していた美容院・スーパーなどに外出支援をしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	共同生活の中でお互いの力を出し合い、一緒に共働する支援を行っている。また、隣接する託児所の園児と畑作りを行い、一緒に育てる喜びや楽しみを利用者同士で励ましあい支えている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>		
<p>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p>			
<p>1. 一人ひとりの把握</p>			
33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>		
34	<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>		
35	<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>		
37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	○	<p>介護計画の見直しについては、家族のニーズや希望を話し合う機会を設け、家族の方の参加を促していきたい。 (家族の都合で出席できない事が多い)</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>		
41	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>		
42	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>		
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	主治医は、適切なアドバイスをしてくれる。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	入居者の身体の状況を相談しながら、一人ひとりの健康管理や医療支援を行っている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	担当看護師からの、情報交換や相談に努めている。尚、入院の場合は短期間で退院出来るように話し合い、必要な支援を行っている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族からの意向を聞き、主治医に伝えている。ターミナルは実施していない。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	職員は、かかりつけの医師からの情報を、寮母会議の中で共有し、重度化に向けたケアを家族とともに話し合う支援をしている。		
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	移転先の担当職員との情報交換を行い、今後の支援についてミーティングを行なっている。今までの生活が断続出来る様に支援する。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者は「さん」と苗字で呼び、ニックネームなどでは呼んでいない。また、入浴や排泄時の不安や羞恥心・プライバシーに配慮するとともに記録や情報について保管されている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の希望や思いをくみとり、自己決定出来るように支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日を本人の要望が叶えられる状況にあり、一人ひとりの好きなこと、興味のある事を職員側が把握するように努め、本人のペースに合わせたその人らしい暮らしが出来ている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	その人らしい本人の好みや意向についての、支援が出来ている。また、行きつけの美容院への利用も行っている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	週一回の選択食を行いメニューを本人が選べ楽しめる支援をしている。入居者一人ひとりの希望や好みも考慮しており、盛り付けや片付けを一緒に行っている。法人全体の各部署が合同で、月に一回給会議を行い、要望や希望などを聞いている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	タバコ、お酒は飲んでいない。本人・家族とともに希望は無い。カフェ望を開店し、お菓子や飲み物の希望をとり、提供する事で日常的に楽しめるようにしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を作り、確認できる入居者の方はチェックしている。排泄パターンや仕草を把握して、早めに声掛けやトイレ誘導を行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	裸になることへの不安や羞恥心を考慮し、個人入浴を行っている。概ね、週三回以上を目安に入浴を行ない、個人に合わせたお湯の温度や時間にも工夫している。	○	入居者の希望があれば、夜間浴にも取り組んでいきたい。また、楽しんで頂く様な工夫もしていきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	運動後、また食後の安静等の声掛けを行い、心身を休める場を作るようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりに合わせ、テーブル拭き・お盆拭き・洗濯物たたみ・畑仕事等それぞれおこなっている。	○	畑で収穫した野菜で、入居者の方達と一緒におやつを作っているが、回数を増やし楽しめる場面を多くしたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	移動販売者が来たとき買い物に行き、支払いは能力のある方は自分で支払いをし、金銭の管理を支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や併設施設への交流の為の外出機会を多く設け、戸外に出かけられる計画をし実行しているが、なじみの店や希望の所へは日常的に出かけていない。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	地域の行事には出かけるようにしているが、心身的な部分から限られた人しか外出していない。	○	外出の少ない入居者の方も、家族に呼びかけ一緒に外出することで、外出の機会を作っていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書いたり、電話をかけたり出来る入居者については、自由に行っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時間の設定は無く、いつでも誰でも訪問できている。家族の訪問が多い。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で「カラダもココロも自由な施設です」「身体拘束ゼロ宣言」の施設として職員一同理解し、拘束をしないケアを実施している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	安全を考え玄関にはセンサーを取り付けているが、日中はすべて鍵を開けている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	本人の状態や心情を受容し、行動把握をしながら配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	全てを排除するのではなく、特に注意するものについては、所定の保管場所を決めている。個々の能力に合わせて使用できるように身近に置いてあるものもある。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット報告をする事で、事故防止の対策を考え実行している。尚、年間計画の中で毎月避難訓練を、ISO手順書マニュアルに沿って行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	○	急変や事故発生時の救急対応の訓練については、全職員が十分な技術は保たれていないので、定期的に勉強会を行なっていきたい。
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>		
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>		
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>		
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>		
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリーについては栄養士が管理を行なっている。食事・水分摂取量は、詳細に記録にしている。また、一人ひとりの利用者の食べ物・飲み物の好き嫌いなどの把握も出来ている。	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	来苑者には必ず、手洗い・うがいを励行している。また、インフルエンザに対しては、予防接種を行なっている。法人の各事業所で保健所等の研修にも参加している。	
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板・包丁の殺菌・消毒を定期的に行なっている。食材は安心な自己栽培(野菜)等を使っている。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	本格的な数奇屋風の落ち着いた正面玄関となっており、玄関ロビーには手水鉢もある。	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の草花を生けたりし、家庭的な雰囲気の中で季節を感じて頂く工夫をしている。また、浴室等の共有の場所は安心して、居心地良く過ごせる工夫が出来ている。	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	家族談話室や畳の部屋・キッチンカウンターなど、生活リズムに合わせた環境となっている。和室には、堀コタツが用意されている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

豊かな田園風景の中で、本格的な数寄屋風の落ち着いた雰囲気のある正面玄関がお迎えします。日本庭園が、安らぎを感じさせます。また、裏庭には農園があり、四季折々の野菜を栽培し、入居者の方が作る喜びと育てる楽しみを一緒に体験し、収穫した野菜を材料におやつ作りを行います。心身ともにくつろげるプライベートの個室、ヒノキのバスルームはやわらかく心を癒します。ホールにはオープンキッチンカウンターを設置し、近代的な優雅さと最高の設備を整えています。食材も安心も安全のものを使用し、食事メニューに配慮しています。ボランティア家族会も毎月一回行い、家族とのコミュニケーションを図るようにしています。法人の各イベントや他部署との交流会をはじめとする、多彩な行事に参加。元気になれる時間、豊かで楽しみのある毎日を提供し続けています。

私たちは、住み慣れた地域でその人らしく生きている人間としての尊厳を大切にしながら、ケアの充実を目指し、普通の暮らしが続けられるように支援します。I